

わかくさ

平成24年(2012年)1月17日発行

機関誌『わかくさ』 第19号

社会福祉法人 栄光会

児童養護施設 若草園

IP7号 050-3344-8850 Tel (0880)33-0247

Fax (0880)33-0518

〒787-0155 高知県四万十市下田2211

編集員：片山幸一、横山貴実子、瀬戸雅弘



12.11 餅つき

中村ロータリークラブ(会長 大杉幸雄さん)のみなさまのボランティアによって年越しの準備ができました。毎年、毎年、ありがとうございます。



おもちを食べた後は
絵本の読み聞かせや、
綱渡りの遊びをしてく
ださい、よい交流の
時となりました。◀



▶おもちが冷めないう
ちに上手に丸めたよ!

みんなで記念に。▼



ごあいさつ

一段と寒さ厳しく、寒中お見舞い申し上げます。

昨年中は子ども達、職員共々お世話になりましたこと、また、多くの御支援いただきましたすべての方に、厚く御礼申し上げます。平成24年度に行う若草園創立55年記念事業に対しまして、たくさんの業者様からご寄付を頂きましたことを、重ねて御礼申し上げます。

子ども達は、秋の大運動会や音楽祭ではそれぞれの力を発揮して最後まで諦めずがんばりきりました。師走に入ると、中村ロータリークラブ様主催の餅つきを体験させてもらい、たくさんのお餅をいただきました。近頃では観ることのない杵と臼での餅つきは、たいへん貴重な経験となりました。冬休みになると、ポップサーカス様からご招待を受けホーム別で観覧し、迫力ある演技に圧倒されたことでした。

お正月は帰省できた子ども、できない子どもそれぞれでしたが、それぞれがお家で、園でゆったりと過ごせたことでしょう。

冬休みも終え、48名が元気に3学期を迎えることができ嬉しく思えます。本年度は3名の卒園生が、自立に向けて現在、奮闘中です。おかげさまで、3名とも無事、就職も決まり、後援会「若草園を支える会」より支援を受け、自動車免許取得に向け自動車学校に通わせて頂いております。会員の皆様の御恵贈に、深く感謝いたします。

若草園を支えて下さっている、すべての皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、これからも若草園をよろしくお願い致します。

(年末に職員の不幸があり、新年祝賀のご挨拶は控えさせて頂きました。)



園長 福留久美

【55年記念事業 開催日程】

5月12日(土)11:30~

記念ガーデンパーティー

8月10日(金)13:30~

祝賀会&シンポジウム





10.23 ビーバー・カブラリー
ボーイスカウト活動。歴史の刻まれた高知城で団体競技をしてグループのきずなを強める事が出来ました。



12.11 ボーイスカウト募金活動
毎年この時期、共同募金に出かけます。市内4カ所です。42,664円の義援金が寄せられました。

12.24 クリスマス・キャロル
毎年恒例でクリスマス・イブの夜、園の近所で日頃お世話になっているお家を訪問して、クリスマスの讃美歌「♪もろびとこぞりて」、「♪きよしこの夜」を歌います。下田チームと中村チームに分かれて19軒を巡りました。子ども達の明るい歌声は冬の夜空の星のようでした。



中村チームの1軒目は小椋理事長宅。初めはリハーサルを兼ねてか、この後どんどん声が出されました。



▲教会学校でお世話になっているキリスト教会でも歌いました。

近隣各区長さん宅にも行きました。撮影を恥ずかしがる子どもたち▼



クリスマス・イブの夜、教会に集まった子供たちが、街の家々を訪ねて、クリスマス・キャロルをうたう慣習が、欧米にはあり、これを英語では「キャロリング(caroling)」と言う。

公共交通機関、警察・消防、電気・ガス・水道、放送局など、年末年始にかかわらず平常通りの業務が必要な職種がある。若草園の児童指導員・保育士もその一。平成24年元旦も若草園全体では5名の職員が施設にて新年を迎えた。私も一昨年まで3年連続にて新年を園で迎え、これも一つの役務冥利だと自分の中で武勇伝になっている。

年末年始とお盆時季は子どもの保護者・親類縁者に短い期間でも帰省ができるようお願いしているところであるが、必ずしも全員が可能なのではない。

このお正月には在園児童48人中21人の子どもが園で新年を迎えた。新しい建物になって管理棟に整備されたファミリールームを利用して、帰省は出来ないが保護者が来園して家族水入らずの時を過ごした子どもが2人。保護者と外出した子どもが1人。元日を前後しての帰省もあったので冬休みの間に保護者などに全く会えなかった子どもは13人になる。その中の4人は職員の自宅に2〜3日外泊して擬似的な帰省をした。残る9人はずっと園で過ごした。

毎年、年越しの風習を園でも再現するために、鏡餅やおせち料理、お雑煮など、若草園もお正月の雰囲気になる。紅白歌合戦を終わりで見てもOKだったり、元日か翌日には職員と外食する恒例行事があったり、「お正月、いつもとは違う、過ごし方」になる。元日に園にいる子どもは園長からお年玉ももらえるのだ。しかし、年末年始、普段よりはひっそりとした感じの園がさみしいのは、人数が減っているからだけではないように感じる。



創立55年記念事業の予告

①継続的研修事業で先人に学ぶこと

いよいよ若草園創立55年の歳に突入した。創立当時、「戦後10年の幡多地方は依然として産業文化は振るわず、…崩壊家庭も多かった」と初代園長の西久子さんは30周年記念誌の冒頭に綴っておられる。創設期には運営資金不足という経済的苦労も多かった。また、子どもを養育していく一連の家事も、今とは比較にならないほど大変であった事をうかがい知る。

「大変だった事は、あとになったら忘れてしまう」そんな諺もあるが、若草園の今と将来を考えるにあたっては、過去に多くの人たちからの力添えや苦勞によって今の若草園がある事を忘れてはならない。

この機関誌の題字は西初代園長の書を用いさせていただいている。若草園と名付けたその思いを、55年たった今でも大切にしていきたいと願わされる。

また、地元出身で児童福祉の第一人者である「佐竹音次郎」の足跡もたどろうとしている。四万十市は「幸徳秋水」の顕彰事業を展開しているが、この同時期に生きた「音次郎」の子どもへの熱い思いは、意外と知られていない。

先人達が献身的に子ども達の福祉的育成へと取り組んでいった原動力を、この機会に学んでいきたい。



▲四万十市竹島の県道沿いにひっそりと佇む佐竹音次郎の石碑。記念事業の着手を受けて、てはじめに中学生と一緒に行って草刈りを行った。

・開催日時が決定
5.12土 11:30~14:00
記念ガーデンパーティー
8.10金 13:30~17:00
祝賀会&シンポジウム



11.3 子ども虐待防止パレード
高知県オレンジリボン・キャンペーンで高知駅から県庁前まで行進しました。若草園の中学生女子にアウンスの声を録音してもらいました。



11.12 下田小学校音楽参観日
音楽祭で練習した曲を体育館で演奏しました。



☆作文コーナー☆

おばあちゃん、いつもありがとう

下田小学校 三年 T・C

おばあちゃんは、料理がとくいです。おばあちゃんが作る料理はどれもおいしいです。ときどき、畑のお手つだいをします。

「おばあちゃんは、うねを作るのが上手やね。」
と言ったら、

「本当、ありがとう。ちいちゃんもこれからやっ
ていけば上手になるよ。」と言ってくれました。

べん強でこまっているとき、
「ちいならできるけん。あきらめられん。がんばれ。」

とおうえんしてくれました。ときどき、べん強も教えてくれます。教えるのが上手だから、

「学校の先生みたい。」
と言ったら、
「そうやろうかね。」
とうれしそうでした。

わたしは、おばあちゃんが大すきです。これからもよろしくおねがいします。



家族愛の作文集
高知県モラロジー協議会の作文コンクール入賞作品集。同協議会のホームページで全作品が閲覧できます。



親も兄弟もバラバラになって、改めて家族の大切さを思い知りました。
三年後、お父さんは病気が原因で亡くなりました。その日は水泳記録会でした。ぼくは、覚悟を決めて一生懸命泳ぎました。(きつと父ちゃんが天国で見ようけん頑張ろう。)と思って全力をつくしました。その結果、自己新記録だったのですごくうれしかったです。

父さん

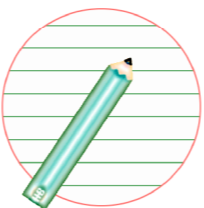
下田小学校 六年 K・K

ぼくは、去年の夏まで、お父さんと二人暮らしをしていました。

なぜ二人暮らしをしていたのかと言うと、ぼくが二年生の時、お父さんの病気のせいでお母さんとお父さんは離婚しました。姉ちゃんと妹は、お母さんの所に行きました。ぼくは、お父さんの所に行きました。

親も兄弟もバラバラになって、改めて家族の大切さを思い知りました。

三年後、お父さんは病気が原因で亡くなりました。その日は水泳記録会でした。ぼくは、覚悟を決めて一生懸命泳ぎました。(きつと父ちゃんが天国で見ようけん頑張ろう。)と思って全力をつくしました。その結果、自己新記録だったのですごくうれしかったです。



9.4 表彰式に参加

第3回 高知県モラロジー協議会主催「家族愛の作文コンクール」で、第2回にひきつづき若草園の2名の作品が入賞しました。高知市で表彰式が行われ、児童が職員とともに出席しました。応募総数2,500から50作品の入賞でした。

この作文は300文字以内のルールがあり、要点をうまくまとめる必要があります。園の子ども達にとっては家族との関わり、その思い出は特別なものです。短い作文の中にそのエッセンスが凝縮されています。

看護師 宮田京子さん

2009（平成21）年2月3日からベビールームの看護師として勤務されていた宮田さんが12月11日に47歳3ヶ月の若さで病死されました。

若草園が建て替え後に開設したベビールームで0歳児をはじめ受け入れる事になり、乳児特有の多くの病気に看護師として対応していただきました。病院で処方された薬を正確に管理していただいたり、急病・ケガなどにも資格をいかして適切に対処してください、共にベビールームを受け持った職員にとっても大きな存在感がありました。

この冬になって「体調がすぐれない」と周りにもらされたこともありましたが、まさかこんなに早く逝去されるのは、突然の訃報に驚愕するばかりです。ご遺族の慰めとともに、ご冥福をお祈りいたします。



12.17 宮田京子召天記念 クリスマス礼拝

毎年クリスマスは盛大にお祝いしていますが、1週間前に宮田さんが急逝されたばかりという事もあり、追悼の内容を含んだクリスマス礼拝に変更しました。



祝会は追悼の会食となりました。宮田さんが園内で子どもと接していた多くの写真がスライド上映されました。

経緯を説明する福留園長▼



宮田さんが担当していたAホームにつくられたメモリアル・コーナー。写真の1歳11ヶ月児も肖像に向かって「宮ちゃん」と呼びかける。



担当の乳児を遊ばせている在りし日の宮田さん。◀



▽ 平成23年度上期 ▽ 苦情解決報告

（平成23年4月1日～12月31日）

- よせられた件数：1件
- 申し出の方法：苦情受け付けポストへ文書を投函
- 申し出の内容：子どもから職員への要望（子どもによって接し方の度合いが違うので公平にして欲しい）
- 解決の方法：受付したばかりであり、もっか申し出た子どもから十分な聞き取りをしているところである。今後担当職員と協議して対応する。

平成23年度 若草園 苦情解決第三者委員会を1月21日（土）に若草園プレイルームで開催することが決定されました。

現在、施設内の苦情解決委員は福留久美園長、増田幸一指導員、森田佳代保育士です。外部の第三者委員は小笠原望氏、矢野川研氏、乾梢氏にお願いしております。（本紙17号に紹介記事があります）

苦情の受付は随時行っております。面談、電話、書面（施設内のポストに投函、もしくは郵送）で受け付けております。施設に対してご意見・ご要望がございましたら、いずれかの方法にて、遠慮なくこの制度をご利用下さい。

編集後記



▽東日本大震災以降、諸外国から日本人の精神風土が見直されると聞く。日本漢字能力検定協会が毎年末に京都の清水寺で発表している「今年の漢字」に2011年は「絆」が選ばれた。2位の「災」、や3位の「震」を2倍以上うわ回つての得票だったという。起きてしまった出来事にくよくよするよりも、その後の人の動きの印象が強かったとの事だろう。ゆえに日本人の心にある福祉の思いが評価されての事だろう。▽ちなみに、若草園から入所児童の保護者へ送っている手紙のことを私たちは「きずな」と呼んでいる。▽若草園に居ても社会の思いの変化を折に触れて感じている。思いがけない贈り物が届けられたり、日頃の恩返しにと社会貢献活動として取り組んでいる共同募金も、例年の倍近く集める事が出来た（内面に記事あり）。▽巻頭のごあいさつでは年賀の表現を省略させていただいた結果となったが、機関誌わかくさ初となる新春発行となった今回号。近所の下田郵便局で「平成24年の年賀状は震災の影響で民営化以来最少じゃないですか？」と尋ねると、「いいえ、東日本の方々は『私たちは元気です』とのメッセージを込めて積極的に出すとの事で、例年並みの38億枚ですよ」。くしくも郵便事業株式会社は年賀状販売開始のプレス発表に「年に一度、人と人との結び付きを表現した年賀状」と今年の漢字を予測していたかのようなコメントを綴っていた。年末に突如飛び込んだきた計報に驚き悲しんだが、一週間もしない内に遺族の手によって喪中欠礼のはがきが届けられた。この絆にも感慨深いものがこみ上げてきた。▽「しからは清水の舞台から飛び降りたつもりで祝儀をやらう」とは歌舞伎の一節。セリフの通り若草園との関わりを大切な絆として、巨額の創立55年記念特別寄付金を贈って下さった方の存在に、驚き喜んだ年末年始でもあった。（せと）